

# 定時制看護学生の看護職に対するイメージと 職業同一性の関連

## The relationship between impression for nursing profession and occupational identity on part-time nursing school students

安藤 宏美・土田 満\*

名古屋市医師会看護専門学校

\*愛知みずほ大学大学院人間科学研究科

Hiromi ANDOU and Mitsuru TSUCHIDA\*

*Nagoyashi IshiKai Nursing College*

*\*Graduate Center of Human Sciences Aichi Mizuho College*

### Abstract

We examined the relationship between impression of the nursing profession and occupational identity, aims to clarify influence of the impression of the nursing profession on career development. Students who have the impression "expertise" for nursing have positive correlation with parental approval in occupational identity. Whereas student who have the impression of "independence" have a positive correlation with having no hesitation to make decisions in occupational identity. Part-time nursing school students have the impression of "independence" for nursing profession, stronger than the impression of "expertise" when they decided to go on a part-time nursing school, it is suggested that they are at a deficient stage of their authentic career development.

キーワード: 定時制; 専門職イメージ; 職業同一性

Key Word : part-time nursing school; impression for nursing profession; occupational identity

### I. はじめに

専門職業人を養成する看護専門学校に入学する看護学生は、入学と同時に専門職への職業同一性を発展させていくことが求められる。職業同一性とは、松下<sup>1)</sup>によれば、社会的現実や自分の能力・適性を踏まえた上で、自分に向いた生きがいのある職業を選びつつあるという感覚であり、自我同一性の概念を提示したエリクソンが、自我同一性の中心的な要素が職業決定であると指摘したことに端を発する。本多ら<sup>2)</sup>は、進学を決定する過程で明確な職業イメージをもち、主体的に進路決定している学生ほど職業同一

性が高く、進路決定の過程で、本命進路を諦めたことが医療職選択への自信を低めることを明らかにした。

看護専門学校に入学する看護学生は、職業決定の猶予や選択の幅がある一般の大学生とは異なり、高校生の時点で特定の職業を念頭に置いた看護専門学校の受験・入学が職業を決定する大きな要因となる。

安藤ら<sup>3)</sup>は、看護に対するイメージと進学動機との関連について、定時制看護専門学校に在籍する看護学生を対象とした調査結果を報告した。看護職の

専門性に関するイメージは、資格程度の肩書だけのイメージで、看護職の本質までの認識には至っていないことを明らかにした。看護職イメージと進学動機との関連については、看護職の生計の安定を表す自立性のイメージが進学動機に影響し、看護職の高度な知識や技術などの専門性というイメージは、影響していないことが認められた。本来あるべき専門性に関するキャリア形成が十分にできていないことが示唆された。

本報では、看護職に対する専門性イメージのキャリア形成への影響について、自分にとってその職業が適正であるとする職業同一性に着目し、看護専門学校入学時の看護職イメージと職業同一性との関連性を検討した。今後、看護職を専門職として認識を高めるためにはキャリア教育でどのような職業ガイダンスが必要なのか、ひいては看護職の専門性向上につながる基礎資料としたい。

## II. 方法

### 1. 調査対象者及び調査期間

愛知県内の定時制であるA看護専門学校に在籍する看護学生の1年生105名（看護師課程73名、准看護師課程32名）を対象とした。調査期間は令和1年3月14日～5月31日である。

### 2. 調査方法

無記名自記式アンケート調査を実施した。

### 3. 調査内容

アンケートの質問内容は、安藤ら<sup>3)</sup>の先行研究と同様の項目に看護職の職業同一性を加えた以下の4項目で構成した。

#### 1) 対象者の基本属性

課程、年齢、性別、出身地、入学前の一般学歴、高校の学力レベル、入学前に在籍していた学校における自分の成績である。

#### 2) 入学時の状況

進学希望校とその理由（自由記述）、将来の希望職種、看護職を希望した時期、看護系学校の受験決定時期である。

#### 3) 看護職のイメージ

安藤ら<sup>3)</sup>で報告した様に看護職のイメージに関する9質問項目を作成し、それらを5件法（5点：非常によく当てはまる 4点：やや当てはまる 3点：どちらでもない 2点：あまり当てはまらない 1点：全く当てはまらない）の選択式とした。また、看護職に対するイメージを自由記述として記述させた。

#### 4) 看護職の職業同一性

職業同一性地位テストの尺度<sup>4)</sup>を使用した。20項目を5件法の（5点：非常によく当てはまる 4点：や

や当てはまる 3点：どちらでもない 2点：あまり当てはまらない 1点：全く当てはまらない）の選択とした。看護職を選択した今の率直な気持ちを自由記述として記述させた。

### 4. 分析方法

看護師課程と職業同一性の各質問項目との関連は、正規性を確認後、t検定あるいはMann-Whitney検定を行った。また、職業同一性尺度を最尤法、プロマックス回転で因子分析を行い、下位尺度毎に合計したものを尺度得点とした。職業同一性の下位尺度と看護師課程、看護職イメージの関連については、正規性を確認後に同様な方法で検定を行った。看護職イメージと職業同一性の下位尺度の関係性は、Spearmanの相関分析を行った。

統計解析にはIBM SPSS statistics ver.27を使用した。危険率5%以下を有意水準とした。

自由記述については計量テキスト分析を行った。解析にはKHCoder(ver.3.00f)を使用した。

### 5. 倫理的配慮

調査対象者には、得られたアンケート結果は、個人が特定できないよう統計処理をすることを口頭と文書で説明し、同意を得て調査を実施した。

本調査はA看護専門学校研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

## III. 結果

回答があった108名のうち、欠損値等があったものを除外した105名を分析対象とした。有効回答率は97.2%であった。

### 1. 対象者の基本属性

年齢は18歳が半数を占め、出身地は愛知県と愛知県以外がそれぞれ半数程度であり、最終学歴は9割以上が高校であった。高校の出身学科は半数が普通科で、出身高校の学力レベルは9割以上の者は偏差値が59以下の高校出身であった。

基本属性を看護師課程と准看護師課程で比較してみると、年齢が看護師課程では18歳が64%を占めているのに対して准看護師課程は20歳以上が56%を占めていた。

### 2. 看護職イメージと職業同一性の関連

#### 1) 職業同一性尺度（全質問項目）と看護師課程との関連

職業同一性尺度の質問項目における5段階回答を「非常によく当てはまる」を5点として点数化し、各看護師課程との関連を検討した。

「12. 私は将来の看護職を考えているが、もしもっと良い職業があれば、変えても良いと思っている。」と「15. 私が就きたい看護職は、いくつかの職業の

中からよく検討して決めたものである。」の2項目において有意差が認められた。「12. 私は将来の看護職を考えているが、もしもっと良い職業があれば、変えても良いと思っている。」では、看護師課程が准看護師課程より点数が有意に高かった。反対に、「15. 私が就きたい看護職は、いくつかの職業の中からよく検討して決めたものである。」は、准看護師課程が看護師課程より点数が有意に高かった。

2) 職業同一性尺度の因子分析

職業同一性尺度を最尤法・プロマックス回転により因子分析を行った結果を表1に示した。

固有値の推移と解釈の可能性から4因子を抽出した。因子負荷量が0.4以上の17項目から因子を構成し、各因子のCronbachの $\alpha$ 係数は0.677~0.735と内部整合性が高かった。累積寄与率は48.4%であった。

第1因子は、「4. 将来、私の興味の持てる職業に就きたいと考えているがまだ具体的に決めていない。」などの9つの質問項目からなり、『理想と模索』と命名した。

第2因子は、「17. 私は当面の看護師国家試験に合格したら、また違う資格取得のための試験に挑戦してみようと思う。」「16. 自分の成長に結び付くことだったら、どんな仕事でもやってみよう。」などの4つの質問項目からなり、『資格志向』と命名した。

第3因子は、「10. 私の考えている将来、看護職に就くことに両親も賛成してくれているので心強い。」「1. 私は将来看護職に就きたいと思っている。両親はそれを賛成しているし、私もそれが親孝行の1つだと思っている。」の2つの質問項目からなり、『親の承認による自信』と命名した。

第4因子は、「14. 私は将来の職業についてすん

表1 職業同一性の因子分析結果(最尤法・プロマックス回転)

項目内容	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子 理想と模索 ( $\alpha = .722$ )				
4. 将来、私の興味の持てる職業に就きたいと考えているがまだ具体的に決めていない。	0.863	-0.12	0.031	0.061
12. 私は将来の看護職を考えているが、もしもっと良い職業があれば変えても良いと思っている。	0.75	0.062	0.05	-0.197
5. 自分の自由な時間が持てる職業がいい。仕事が忙しすぎるのはいやだ。	0.698	-0.173	0.203	0.147
7. 私は今のところ、こういう職業をしたいというものがない。	0.576	-0.037	-0.118	0.137
20. 前の職業と全く関係がない職業でも、よい職業があればそのほうを選びたい。	0.531	0.173	0.015	-0.283
3. 私はどのような仕事が自由かは判らないが、とにかく自由な仕事がしたい。	0.495	0.042	0.059	0.009
6. 私には一応将来看護職に就きたいと思っているが、自分に自信がなくて考えがぐらつくことがある。	0.485	0.056	-0.053	0.259
18. 私はかつて自分に向いた職業があると思っていたが迷いが生じ、今はどのような職業が良いか模索中である。	0.456	0.111	-0.18	-0.105
8. 私は自分が看護職を目指して着実に歩んでいると思う。だから、よほどのことがないかぎり、その志望を変えることはないと思う。	-0.455	0.096	0.258	0.148
第2因子 資格志向 ( $\alpha = .707$ )				
17. 私は当面の看護師国家試験に合格したら、また違う資格取得のための試験に挑戦してみようと思う。	-0.007	0.791	-0.126	-0.032
16. 自分の成長に結び付くことだったら、どんな仕事でもやってみよう。	-0.092	0.634	0.123	-0.025
13. 私はできるだけ多くの資格をとりたい。	0.224	0.611	0.082	0.175
19. 入学前に勉強していたことは将来の職業に結び付いており、大変役に立つと思う。	-0.137	0.418	0.009	0.143
第3因子 親の承認による自信 ( $\alpha = .735$ )				
10. 私の考えている将来、看護職に就くことに両親も賛成してくれているので心強い。	0.029	0.027	1.054	-0.123
1. 私は将来看護職に就きたいと思っている。両親はそれを賛成しているし、私もそれが親孝行の1つだと思っている。	0.022	0.009	0.501	0.253
第4因子 躊躇ない決断 ( $\alpha = .677$ )				
14. 私は将来の職業についてすんなり決めたとする。	0.125	0.027	-0.064	0.929
11. 私が将来就きたい看護職は小さいときから考えていたものだ。その職業に就くことに疑問を持ったことはない。	-0.029	0.025	0.047	0.522
因子相関	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子	-	0.170	-0.293	-0.232
第2因子		-	0.166	0.134
第3因子			-	0.466
第4因子				-



看護師課程は社会人が多く、自ら生計を立てないといけない現実に直面しているため自分の学力も考慮し、看護職に就くことを十分に検討した職業選択であることが推察される。

看護職イメージと職業同一性の相関については、看護職の『専門性』のイメージと職業同一性の『親の承認による自信』に有意な正の相関が認められた。専門性のイメージが高いほど自己の学力等の適正に不安が生じ、信頼する者の後押しを求め、親の承認により自信が持っていることが推察される。これは、現代の若者の特徴である親離れができず、意思決定を親に依存する傾向にある点から親の後押しがあると自信になることは十分考えられる。

看護職イメージの『公共性』と職業同一性の『理想と模索』には有意な負の相関が認められた。看護職の『公共性』のイメージが高い、つまり、看護職の、社会的評価が高く、誇りが持て、人の役に立つ等の職業であるイメージが、社会のなかで自己の役割を見出せる理想的な職業として魅力を感じていることが推測される。

『自立性』のイメージと職業同一性の『躊躇ない決断』には正の相関が認められた。また、給料が良い、一生続けられる、女性にとって自立しやすいといった自立性のイメージが高い者は、そうでない者に比べて、躊躇せず決断する点数が有意に高かった結果を踏まえると、経済的自立から定時制校に進学している学生が殆どであるA校では、看護職に就くと、将来の生計が安定するという経済的に自立できるイメージが、職業決定の大きな要因になっている可能性が推察される。

定時制校である学生は、看護職に対して経済的な自立面をイメージする傾向にあると、躊躇せず決断する者が多い。給料が良い、一生続けられる、女性にとって自立しやすいといった自立性のイメージが高い者は、そうでない者に比べて、躊躇せず決断する点数が有意に高いことは、やはり経済的自立を考えて定時制校を進学しているからであると考えられる。

これらから、定時制A校学生の職業同一性に対しても進学動機と同様に、看護職の高度な知識・技術や生涯学習という専門性のイメージはあまり影響していないと考えられる。また、今回は入学から1年近く経過し、過酷な看護専門学校のカリキュラムを体験して入学時点での職業同一性とは時間的バイアスがかかっている点が研究の限界でもある。

以上のことから、定時制の看護師養成所に進学した学生は、高校生、また社会人において進学を決める時点で、看護師の自立性のイメージが優先し、職業選択に看護職の専門性があまり影響を及ぼしていないこ

とから本来のキャリア形成は未だ不十分な段階にあることが示唆される。職業人を短期で養成する看護専門学校に進学する学生・生徒であるゆえに、適切なキャリア形成の上での入学が望まれる。

## V. 結論

看護職の地位向上が求められているなかで、准看護課程を含む定時制の看護師養成所へ入学を希望する学生に対する適切な職業ガイダンスの必要性が示唆される。定時制看護学校の在り方を含めた看護職の教育体系改革の基礎資料として役立つことを期待したい。

## 利益相反

論文に関連し、開示すべきCOI(利益相反)関係にある企業等はない。

## 引用・参考文献

- 1) 松下由美子, 木村 周: 看護学生の職業同一性形成を規定する要因の検討, 教育相談研究, 31, 29-45, (1993)
- 2) 本多陽子, 落合幸子: 医療系大学生の進路決定プロセス尺度作成の試み, 茨城県立医療大学紀要 11, 45-54, (1993)
- 3) 安藤宏美, 土田 満: 定時制看護学生の看護職イメージと進学動機, 瀬木学園紀要, 第19号 21-29, (2021)
- 4) 中野良哉ら: 医療系専門学校生の進学動機と職業的同一性 — 理学療法士, 作業療法士養成課程の学生を対象に一, 高知リハビリテーション学院紀要 第11 巻 1-15, (2010)
- 5) 前田智香子: 専門家の職業的アイデンティティ形成の研究に必要な視点, 文学部心理学論集(3), 5-14, (2009)
- 6) 寺崎里水: 「好き」を入口にするキャリア教育の限界 — 子どものやりたい「しごと」をめぐって —, 年報社会学論集, 19号, 101-105, (2006)
- 7) 内閣府政策統括官: 若者の包括的な自立支援方策に関する検討会 中間とりまとめ, (2004)
- 8) 三津橋佳子, 関由起子: 5年一貫看護師養成課程における生徒・学生の職業的アイデンティティ達成スタイルとその要因, 埼玉大学紀要教育学部, 65 (1) 131-143, (2016)
- 9) 高田 望, 朝倉京子, 杉山祥子: 看護師の専門職意識を構成する概念の検討, 東北大医保健学科紀要, 25(1), 47-57 (2016)

- 10) 根岸 茂登美, 加城 貴美子: 「看護婦」のイメージ形成に影響を及ぼす要因の分析, 川崎市立看護短期大学紀要, 27-38, (1997)